

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
【発行日】令和 6 年 4 月 4 日(2024.4.4)

【公開番号】特開 2023-76966(P2023-76966A)  
【公開日】令和 5 年 6 月 5 日(2023.6.5)  
【年通号数】公開公報(特許)2023-103  
【出願番号】特願 2021-190017(P2021-190017)  
【国際特許分類】

H 0 1 R 13/42(2006.01)

10

H 0 1 R 13/516(2006.01)

H 0 1 R 13/52(2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/42 E

H 0 1 R 13/516

H 0 1 R 13/52 3 0 1 B

H 0 1 R 13/52 3 0 1 H

【手続補正書】

【提出日】令和 6 年 3 月 27 日(2024.3.27)

20

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 9】

第 2 屈曲経路 8 2 と電線 3 3 との間のクリアランスは、第 1 屈曲経路 8 1 と電線 3 3 との間のクリアランスよりも小さい。例えば、第 1 屈曲経路 8 1 と電線 3 3 との間のクリアランスは、前後方向において第 1 屈曲経路 8 1 と電線 3 3 との間に生じる隙間である。第 2 屈曲経路 8 2 と電線 3 3 との間のクリアランスは、前後方向において第 2 屈曲経路 8 2 と電線 3 3 との間に生じる隙間である。例えば、図 7 に示すように、第 2 屈曲経路 8 2 と電線 3 3 との間のクリアランスは、ほぼ生じておらず、第 1 屈曲経路 8 1 と電線 3 3 との間のクリアランスよりも小さくなっている。これにより、第 1 屈曲経路 8 1 よりも第 2 屈曲経路 8 2 において電線 3 3 の前後方向へのガタ付き(振動)を抑え易くなる。そのため、電線 3 3 と端子金具 3 1 との接続部分 3 7 への負荷を抑えることができる。

30

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

【0 0 4 8】

図 1 3 に示すように、カバー 7 0 において、上側のロック爪 7 3 が、保持用突起 7 5 の近傍に配置されている。上側のロック爪 7 3 は、上下方向において保持用突起 7 5 と同じ高さに位置している。上側の一对のロック爪 7 3 は、一对の保持用突起 7 5 を左右方向両側から挟む位置にある。左側のロック爪 7 3 は、左右方向において左側の保持用突起 7 5 に対して、第 1 シールリング 4 3 の幅と同程度の間隔で離間している。右側のロック爪 7 3 は、左右方向において右側の保持用突起 7 5 に対して、第 1 シールリング 4 3 の幅と同程度の間隔で離間している。ロック爪 7 3 の先端(前端)の位置は、前後方向において保持用突起 7 5 の先端(前端)の位置と同じ位置にある。防止壁 1 6 3 によって保持用突起 7 5 のロック部 1 6 2 から離れる方向への動きが止められているため、保持用突起 7 5 の

50

近傍に位置するロック爪 73 も容易に動かなくなる。

【 手 続 補 正 3 】

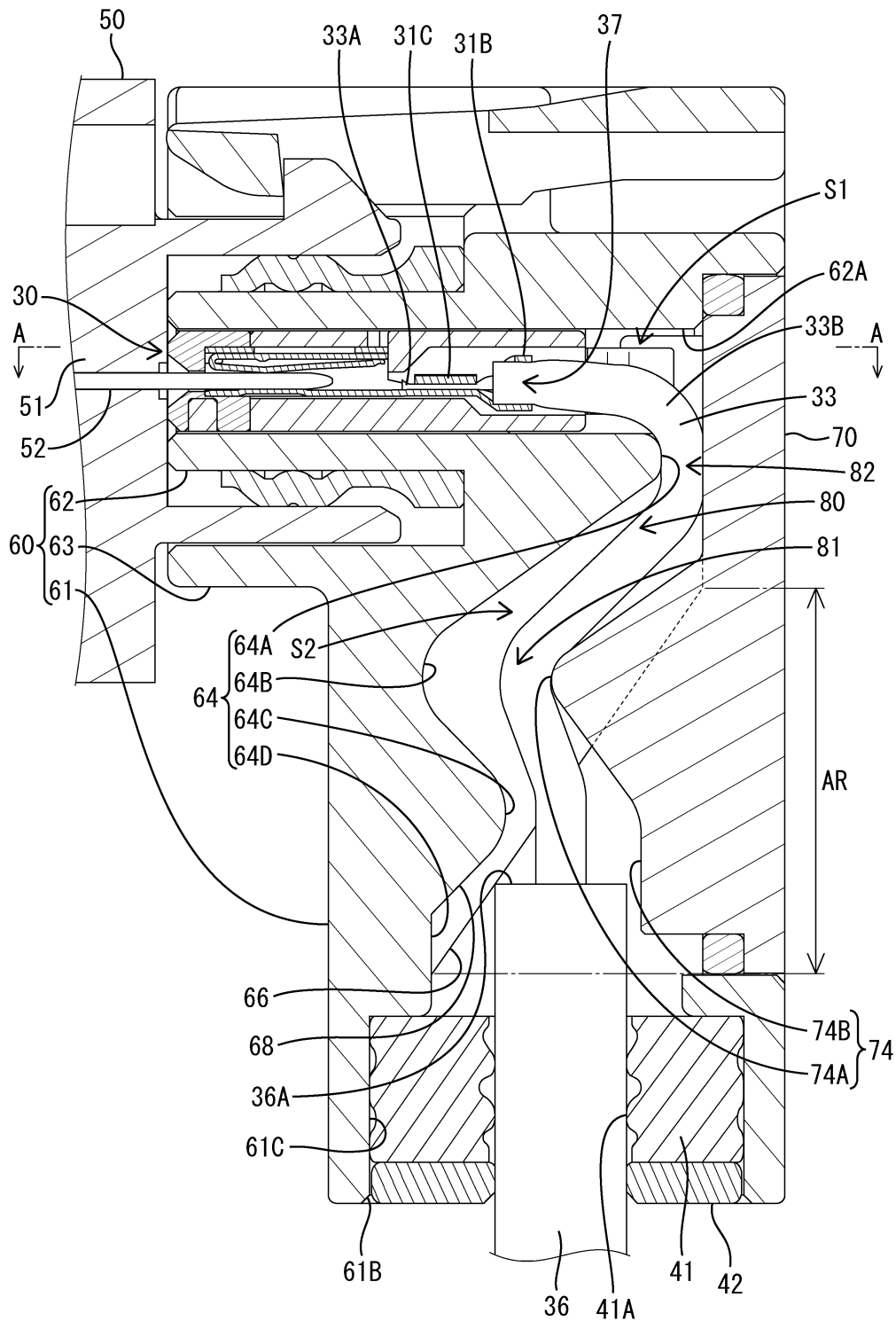
【 補 正 対 象 書 類 名 】 図 面

【 補 正 対 象 項 目 名 】 図 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 図 7 】



10

20

30

40

50